

平成 25 年度第 4 回一関市総合計画審議会会議録

企画振興部企画調整課

1 会議名

平成 25 年度第 4 回一関市総合計画審議会

2 開催日時

平成 26 年 2 月 13 日（木） 14 時から 16 時まで

3 開催場所

なのはなプラザ 3 階 一関公民館 大会議室

4 出席者

一関市総合計画審議会委員 17 人

阿部新一委員、及川忠委員、小山麗子委員、木村静恵委員、金野久美委員、
小岩邦弘委員、佐藤芳郎委員、菅原勇委員、千田博委員、千葉博委員、
千葉政吉委員、千葉真美子委員、槻山チ工委員、永澤由利委員（副会長）、
沼倉恵子委員、畠中良之委員（会長）、三浦幹夫委員

欠席委員 10 人

阿部美代子委員、岩淵三枝子委員、大澤弘毅委員、小野松男委員、小森洋子委員、
菅原五三男委員、千葉和行委員、千葉久美委員、千葉敏恵委員、松岡千賀子委員
市出席者

勝部市長、佐藤企画振興部長、鈴木総務部財政課長、企画調整課員

5 市長挨拶

この審議会の前に J A の生産推進大会に出席し、I L C の視察でスイスのジュネーブで朝市を見学してきた話をしてきた。朝市には、とても多くの種類の食材が並び、各国から多くの視察者が訪れる。I L C は素粒子物理学の学問の世界だけではなく、地域の第一次産業との関わりも大きくなっていくことを感じた。I L C のプロジェクトは第一次産業との関わりや観光との関わりにも位置付けて戦略をうっていける大きなチャンスにもなっている。

政府の来年度予算の概算要求で I L C の調査費が満額計上された。これは、世界各国の関係機関に対して大きなメッセージとして伝わった。今年はこのプロジェクトが大きく進む。国も国家プロジェクトとして位置付けてやっていくということで、水面下では動いている。いずれにしても順調に良い方向に向かって動いていると申し上げられると思う。

今年はさまざまな枠組みが変わる年である。農協も合併し、3 月にいわて平泉農協となる。森林組合は新年早々に合併したほか、商工会議所は昨年、藤沢町商工会と合併し動きだしている。行政も平泉町と定住自立圏という国の事業を導入し、現在、ビジョン作りの作業を進めている。

一関の次期総合計画の策定もそのような新しいステージの中での計画ということを真ん中に据えて臨んでいきたい。

次期総合計画の策定について、諮問から答申までの間にさまざまな情報収集や意見交換をしていただき、より広範囲から情報を収集して総合計画の策定に取り組んでいただきたい。

例えば、まちづくりスタッフ会議という市民と職員で組織する会議があるのだが、その委員の皆様との意見交換や市議会議員の皆様との意見交換である。

審議会の皆様方には、これから先の一関にとって重要な部分を担っていただくこととなるので、よろしくようお願い申し上げます。

6 議題

次期総合計画について

ア 次期総合計画について

イ 次期総合計画の策定体系について

ウ 総合計画審議会の意見等への回答

平成 26 年度当初予算案の概要

平成 26 年度予算のポイント

総合計画実施計画（平成 26・27・28 年度）について

新市建設計画事業【一般会計分】進捗状況一覧（H18～24 年度実績）

7 会議の内容

次期総合計画について

ア 次期総合計画について

初めに事務局から資料の説明を行い、質疑・意見交換を求めた。

質疑・意見等なし 事務局案のとおり了承

イ 次期総合計画の策定体系について

事務局から資料の説明を行い、質疑・意見交換を行った。

審議会委員意見

これから 10 年間の一関の将来像となる、非常に大切な計画として理解している。

考え方は基本構想と基本計画、実施計画があるが、基本構想はこれまでの一関の流れの中で既にあるものが、それとも、アンケート等を募りながら、基本構想をつくっていくのか、基本的な考え方を教えてほしい。

議長（会長）

一関市という流れがずっと続いているので、全くゼロから基本構想を作っていくというのは考えられないと思う。

基本構想の原案的なものがあって、そこにどのような未来の夢をのせていくか、という考え方となると思う。

市回答

策定の大きな流れは、最初に10年間の基本構想を策定していただき、それに基づき、5年間の前期の総合計画を策定していただく。

後期は改めて5年後に策定していただく。基本構想の策定にあたっては前段でアンケートを実施し、内容をお示しして、基本構想の策定に入っていただくという流れとなる。

議長（会長）

まず、我々が作るものについては基本構想と前期の総合計画ということとなる。

審議会委員意見

これから10年後の将来像を考えるために、若い人たちの生の声をどのように集めていくか、ということが疑問である。

議長（会長）

策定体系については、ワーキンググループ方式で検討したいと考えている。その中で若い人たちからの意見についても考えていきたい。

市回答（市長）

今のお話しは懸念材料であると思う。私の考えは審議会として、様々な場面をうまく利用することを考えている。

例えば、移動市長室を行っているが、それを利用して、メニューの中に、高校生と対話するとか、ILCの対話集会を行うなど、そのような一コマも利用次第で若い人たちの声を吸い上げることが可能である。

また、まちづくりスタッフ会議との意見交換については、独立して意見交換会を開催することも1つの方法だが、スタッフ会議をやっているところにオブザーバー参加のように審議会メンバーが参加するなど、そのようなやり方もあると考えている。

審議会委員意見

事務方は大変な作業量になると思うが、ゼロからやるのではなく、コンサルを利用し、たたき台を作ってもらったりしながらやるのか。

市回答（市長）

コンサルを入れるというやり方は基本的にはとらない。どこでも通用するような表現になるため、なるべく自前で作っていききたいと思う。

議長（会長）

意見交換については、審議会すべてのメンバーで対応することとはせず、ワーキングチームにわけてあたっていくということを考えている。

審議会の負担を考えた上で、多くの意見集約をするには、どのようにしたらよいか検討したい。

審議会委員意見

今期から審議会委員となったが、今まで総合計画審議会とは何なのか、説明がなされな

いままきた。総合計画審議会条例の委員の定員、任期、役割等を説明してほしい。

市回答

総合計画の計画書 260 ページの総合計画審議会条例で説明させていただく。

審議会は、総合計画の策定について市長の諮問機関としている。

委員は 27 名以内と規定。各部、各支所等からの推薦のほか、公募で 27 名の方としている。任期は 2 年で今期は今年の 8 月である。

必要に応じて知識経験を有する者の出席を求め、意見を聴くことができるとされている。

審議会委員意見

多方面からの意見を聴くというのは、第 6 条の「意見を聴くことができる。」についての拡大解釈として理解してよいか。

議長（会長）

そのようなものも一つの方法だと考えられると思う。

議長（会長）

それではこの、多方面から意見をいただきながらやっていくという方法について意見を伺う。

審議会委員意見

この方法について賛成である。広く市民からの意見が集まってそれをたたき台にし、審議をしながら方向性を決めていくスタンスは必要だと思う。

審議会委員意見

藤沢地域は各自治会の計画を作って地域の計画とすることとしているが、そこに住んでいる人たちが計画を作るのが本来の意味であろうと思っているので、多方面から意見を聞くというのは非常に良いことだ。

審議会委員意見

地域のことは現場に行ってみてみないとわからないこともあると思うので、必要に応じて現場視察もあったほうが、より皆さん理解できると思うのでよろしく願いしたい。

審議会委員意見

賛成である。白紙から作り上げていくのか、ある程度、案を示してそれに対して意見を付けていくのか、やり方はいろいろあると思う。

審議会委員意見

基本的には賛成である。

市議会議員との懇談であるが、何班かに分かれ、常任委員会ごとに意見交換としたほうがよいと思う。

議長（会長）

では、多方面からの意見を集約するという手法についてはご賛同していただいてよろしいか。

（異議なし）

具体的な手法は、委員の方に何名かお手伝いをいただき、相談させていただくのでご協力をお願いしたい。

ウ 総合計画審議会の意見等への回答

事務局から、前回の審議会の後に意見書により提出された意見等について、資料を用いて報告した。

議長（会長）

このように意見書を提出していただくと、お答えする形をとっているのですが、ぜひご利用願いたい。

議長（会長）

次期総合計画については以上で審議を終わる。ほかに意見がある方はお願いしたい。

審議会委員意見

基本構想について、前期の基本構想があるが、是正しなければならない部分、項目はあるか。ないのであれば、過去の基本構想から大幅に変える訳にはいかないのではないかと思う。

基本構想は過去の10年間をベースにして直していくというのか、全く新たな基本構想を作っていくのか考え方を示しいただきたい。

市回答

不都合な点は、今のままでないが、時代の背景といったところでプラスがあるかと思われる。例えば、人口減少とか高齢化、あるいはILC、それらを将来像とどうリンクさせていくか、ということについても、皆様からご意見をいただきたくお願いしたい。

議長（会長）

次回この部分を皆さんにご審議いただくところである。基本構想は、従来やってきた中に時代性を加味していく仕事だと思っている。次回までにお考えいただき、ご異議ないようであれば、そのような方法をとりたいと思っている。

平成26年度当初予算案の概要

平成26年度予算のポイント

総合計画実施計画（平成26・27・28年度）について

新市建設計画事業【一般会計分】進捗状況一覧（H18～24年度実績）

事務局から一括で資料の説明を行い、質疑・意見交換を行った。

審議会委員意見

新市建設計画事業の 80 歴史の小道整備事業について 3 点質問したい。

1 点目は新聞で読んだのだが、歩道をカラー舗装で黄色にすることだが、カラーは黄色で決定なのかどうか。

2 点目、歴史ゾーンを組んでいる場所についても同じカラーとするのか。

3 点目、堰を整備する計画があるようだが、その構想の状況はどうなっているか。

市回答

担当課に確認し、回答する。

審議会委員意見

実施計画書総括表について H26 事業費の総計が 201 億円となっており、H27 はおよそ半分の 108 億円となっているが、これまでと違うことなどあるのかと推測されるが、どうか。

市回答

実施計画の事業費は大まかに言えばハード事業である。H26 は 201 億、H27 は 108 億、H28 は 77 億と段階的に減っていく。

普通建設事業と実施計画事業がだいたい同じ性質と考えていただきたい。実施計画事業には他にも事業が加算されているので、実際はもう少し多い金額となっている。大きい箱ものの事業や大型の道路建設事業が集中していた、とご覧いただければよい。よって、大きいハード事業は 3 ~ 4 年位前までの規模に戻るとイメージしていただきたい。

そのほか、実施計画は毎年ローリングしていくので、来年のことはわかるが、再来年のことは予想しにくい。新しい事業が増えるという要素もある。

また、財政見通しの話をしたが、普通交付税が段階的に削減されていく。予算の総量をコントロールしてだんだん軟着陸をしていかなければいけない状況である、ということもある。

審議会委員意見

街路灯の LED 化改修事業だが、現在は、太陽光発電のものも普及しており、初期投資は少し高いような話も聞いているが、その後の負担軽減が図れるので検討していただきたい。

市回答

担当課に伝える。

審議会委員意見

我々に勉強する機会を与えてほしいと思う。講演会等いろいろな場所で行われることがあると思うが、その際に、市から審議会の委員に案内をいただき、興味がある人、都合のよい人が参加するようにしたらどうか。

議長（会長）

参考に、平泉との定住自立圏の懇談会に参加しているが、そちらのメンバーの中から、勉強させてほしい、という意見がでて、1回勉強会を増やした例がある。

審議会委員意見

審議会のために専門の講師を呼び、勉強会をするのはお金がかかるので、商工会議所などでやる講演会など情報を集めて教えていただきたい。

審議会委員意見

任期2年とある。勉強してこれからというときに、任期がきれるのではないか。再任用等の規定はあるのか。

市回答

2年任期ではあるが、現在の委員の方についても再任でお願いしている方がいる。公募という方式をとっているので、公募していただければ、再任もある。

議長（会長）

勉強してまたやりたいということであれば、公募がある。

審議会委員意見

前期、後期等で任期を切るほうが効率がよいのではないかと思った。

議長（会長）

ご要望として承る。

審議会委員意見

実施計画総括表の高齢者福祉のところを見ると、H26と比べ、H27、H28はだいぶ減額している。高齢化と人口減少への対応をしていくというのになぜか。義務教育の欄も同様である。

市回答

高齢者福祉の部分については、H26の事業費が大きくなっているのは、介護サービス施設の補助金があるためである。ほか、投資的経費のハードの部分が実施計画には計上されているが、義務的な経費については予算に計上されているので、この数字の限りではない。

義務教育の分については、H26年度に磐井中学校など、小中学校の整備が集中してきている部分があり、その時期が過ぎると、ハード整備がひと段落するという状況である。整備を除けば、毎年同規模の予算で推移してきている。

審議会委員意見

一関市の生活保護を受けている世帯数は何件か。

市回答

生活保護費については、月平均935人である。

議長（会長）

策定体系について何名かご協力いただきたい。木村静恵委員、小岩邦弘委員、千葉政吉委員、永澤由利委員、沼倉恵子委員、あと私で検討することとしたい。

16時00分 閉会

8 会議の公開、非公開
公開

9 傍聴者の数
2人（報道機関）